

執筆者紹介

むらかみ しゅんすけ 村上 俊介	本学経済学部教授 本研究所所長	すみの たかのり 隅野 隆徳	本研究所研究参与
くまの よしお 熊野 剛雄	本研究所研究参与	かじはら かつみ 梶原 勝美	本学商学部教授
いいた けんいち 飯田 謙一	本研究所研究参与	おおや おし 大矢根 淳	本学人間科学部教授
いしかわ かずお 石川 和男	本学商学部教授		本研究所事務局長
しばた ひろとし 柴田 弘捷	本研究所研究参与	ひぐち ひろみ 樋口 博美	本学人間科学部教授

〈編集後記〉

月報7+8合併号として「2014年度春季実態調査（ベトナム南部・中部）特集号」をお届けいたします。社研ではベトナム社会科学院(VASS)・東北アジア研究所と国際交流組織間協定を締結して、これまで主にハノイにて同研究所との研究交流を重ねて参りました。この1月には、その協定の3年延長の調印式を生田キャンパスで持ち、ミン所長はじめスタッフの皆さんを雪積もる山中湖セミナーハウスにお招きして現地調査・研究会（「ドイ・モイ（革新）の28年後のベトナム経済：課題と展望」：ミン所長講演、ラン日本学術センター統括副センター長通訳、2015年1月20日）を開催いたしました。

そして今回の春季実態調査（2014年度末の2015年3月11日～17日）では、ミン所長にお力添えいただくことがかなって、ホーチミンのVASS・南研究所（SISS）を訪問して、同研究所所長、研究員にレクチャーしていただき研究会を開催することができました。今回の実態調査の詳しい行程そしてSISSを含む訪問箇所（工業団地の企業等々）とその要点は、巻頭の村上所長の論考に詳しいのでご覧ください。また、巻末には行程の要所要所の写真をあげたミニ・フォトエッセーがありますので合わせてご覧ください。

社研の実態調査でのホーチミン訪問は、手元の記録を紐解いてみると、「1997年 ベトナム視察調査 計画投資省、ベトナム共産党、社会科学院人文研究所、その他企業訪問」（社研HP、「歴史」より）とあって、実に久しぶりとなりました。拡大を続ける郊外の工業団地や賑わう都心のショッピングモールを訪ねて、また、古都・フエを訪ねて、見聞・交流を深めました。投稿いただいた論考は、こうしたベトナムの経済、経営、人事管理、安全保障など多岐にわたるものとなっております。

今年度に入ってから夏休みに、VASS・東北アジア研究所から社研・樋口博美所員がハノイに招聘されて、集中講義「歴史と文化：工芸と祭礼にみる日本の伝統技能と文化の継承」を行っており、ますます両研究所の交流は活発になってきています（その帰国報告会が社研定例研究会「日越国際交流研究会 — 『日本の歴史と文化』における発表（『日本の伝統工芸品産業の経験とベトナム』）報告—」として開催されました）。また、佐藤康一郎所員は特別研究助成にて研究グループ「ベトナム社会主義共和国の経済及び産業、社会、文化の変容と諸課題」を組織して取り組んでいて、その成果は今年度後期、学部科目「学際科目110（総合科目110）」として還元されています。

両研究所研究交流の成果は着実に蓄積されつつあります。今後の展開にご期待ください。

(J)

2015年8月20日発行

神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1番1号 電話 (044)911-1089

専修大学社会科学研究所

The Institute for Social Science, Senshu University, Tokyo/Kawasaki, Japan

(発行者) 村上 俊介

製作 佐藤印刷株式会社

東京都渋谷区神宮前2-10-2 電話 (03)3404-2561
